



令和3年度

赤十字活動のご報告

Our world. Your move.

人間を救うのは、人間だ。



日本赤十字社は、新型コロナウイルス感染症が確認された当初から、このウイルスと戦ってきました。クルーズ船への救護班の派遣に始まり、感染者の治療や療養を医療で支え、緊急事態にあっても血液の安定供給を維持するなど、日々職員が奮闘しております。赤十字の活動には、多くの方から温かい言葉をいただき、また、寄付や献血など様々な形でご支援をいただいております。

わたしたちは、ウィズコロナの時代に的確に対応するため、新たな挑戦を続け、人々が安心して暮らせるよう責任を果たしてまいります。

1 災害救護活動

赤十字は、日本赤十字社法、災害救助法、災害対策基本法などによって、災害発生直後から復興期までの救護活動やこころのケア活動を行う組織として位置付けられています。

また、三木市に整備した「日本赤十字社兵庫県支部災害救護支援センター」において、施設機能を活かして救護員研修などを実施し、更なる災害救護体制の充実と強化に努めています。

1 救護班と救護員の編成及び各種防災・救護訓練の実施

自然災害や大事故が発生し救護班が必要になった場合に直ちに出勤できるよう、県内3カ所の赤十字病院に救護班を編成し、要員登録を行っています。

また、姫路及び神戸赤十字病院では、災害の超急性期に対応する日本DMAT(災害派遣医療チーム)隊員に68名を登録し、発災直後に医療救護が行えるよう資機材を含め備えています。

兵庫県支部では、今後、いつ発生するかもしれない大災害に備え、各種防災訓練に参加しました。訓練では新型コロナウイルス感染症対策を施し、コロナ禍での救護活動も想定して実施しています。

また、コロナ禍における災害救護活動を実施するため、感染防護資材を備蓄しています。

◆主な救護訓練参加状況

11月	姫路市災害対策本部運営訓練(図上)
	大阪国際空港航空機事故対策総合訓練
12月	近畿府県合同防災訓練
	近畿地方 DMAT ブロック訓練

※新型コロナウイルス感染症蔓延のため、多くの訓練は中止・延期となりました。

◆救護員研修会

四半期ごと	衛星電話通信研修
11月	救護員主事研修
	救護員基礎・実践研修
12月	災害派遣医療チーム技能維持研修
1月	災害システム研修
2月	こころのケアフォローアップ研修
	災害拠点病院研修

◆感染防護資材備蓄数

感染防護資材	備蓄数	感染防護資材	備蓄数
サージカルマスク	19,152	アイソレーションガウン(医療用ガウン)	2,096
高性能マスク(N95マスク)	850	防護キャップ	600
フェイスシールド	740	ニトリル/プラスチック手袋	7,100
防護服	600	非接触体温計	4

◆救護班数

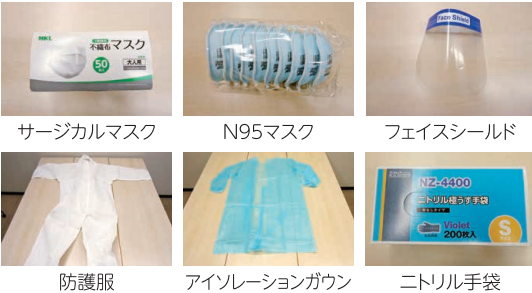
姫路赤十字病院	8班
多可赤十字病院	2班
神戸赤十字病院	5班
合計	15班

◆救護班の編成基準

医 師	1人
看護師	3人
主 事	2人
1班合計	6人

◆日本DMAT隊員登録数

	医 師	看護師	業務調整員	計
姫路赤十字病院	4人	13人	9人	26人
神戸赤十字病院	9人	6人	27人	42人
合 計	13人	19人	36人	68人



2 救援物資の備蓄・配布

個人の住宅やマンションが火災や水害等に遭われた際、毛布や緊急セットなどを配付しました。また、不幸にもお亡くなりになられた場合には、ご遺族に災害見舞金を交付しました。



区 分	配布数	備蓄在庫数
毛布	155枚	6,730枚
緊急セット	95セット	3,312セット
安眠セット	0セット	811セット
タオルケット	0枚	6,000枚

災害見舞金の交付22件 540,000円

(令和4年3月末現在)

3 赤十字防災ボランティア



赤十字の災害救護活動に協力することを目的として、現在、防災ボランティアリーダー3人、サブリーダー4人、そして個人ボランティア65人が赤十字防災ボランティアとして登録しています。

令和3年度においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実地訓練は行わず、赤十字防災教育事業指導者による「災害への備え(講義)」、「避難所運営ゲーム(HUG)」を通じて、自助・共助の重要性を再確認するとともに、災害発生時の初動から避難所での運営支援等について意識統一を図りました。

4 国内災害義援金・海外救援金の受付額

令和3年度に兵庫県支部でお受けした災害義援金、海外救援金は次表のとおりです。

(円)

義 援 金	平成30年7月豪雨災害	109,768
	令和2年7月豪雨災害	7,658,389
	令和3年2月福島県沖地震災害	71,663
	令和3年島根県松江市大規模火災	17,971
	令和3年7月大雨災害	1,172,736
	令和3年台風第9号等大雨災害	84,969
	令和3年8月大雨災害	401,220
	令和3年長野県茅野市土石流災害	255,779
	令和4年3月福島県沖地震災害	200,000

救 援 金	バングラデシュ南部避難民	540,106
	中東人道危機	40,305
	アフガニスタン人道危機	1,522
	トンガ大洋州噴火津波	229,241
	ウクライナ人道危機	4,567,888

義援金・救援金 合計 15,351,557

(令和4年3月末現在)

2 健康と安全を守る講習

赤十字では、誰もが持っている「苦しんでいる人を助けたいという優しい心」、その優しさを行動に移す“自信”と“勇気”を持っていただけるように、AED(自動体外式除細動器)を活用した心肺蘇生をはじめ、救急法や健康生活支援講習などの講習と赤十字防災セミナーを県内各地で開催しました。

また、新型コロナウイルス感染症が流行する中、外出による感染を心配することなく自宅で健康や安全等について学んでいただくことができるように、オンライン講習の充実を図りました。



開 催 実 績	区 分	基礎・養成講習		短期講習		オンライン講習	
		回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
	救急法	32	351	79	2,746	26	182
	幼児安全法	感染防止のため中止		31	345	12	81
	水上安全法	感染防止のため中止		1	16	—	—
	健康生活支援講習	2	46	23	508	5	8
	防災セミナー	—	—	28	1,714	—	—

新型コロナウイルス感染症感染防止のため、人と人との接触が避けられない実技を含む講習は中止しました。

(令和4年3月末現在)

3 赤十字奉仕団

赤十字の使命とする人道的な諸活動を身近な社会の中で実践しようとする人々が集って結成されたボランティアの組織です。兵庫県支部では、市町を基盤にした地域奉仕団(44団、35,203人)、専門的な技能をもった人々による特殊奉仕団(9団、526人)、学生を中心に組織された青年奉仕団(2団、153人)が登録されています。



1 地域赤十字奉仕団

(1) 地域赤十字奉仕団員研修会

10～11月、地域赤十字奉仕団員研修会を県内13会場で開催し、養父市、西脇市、伊丹市、川西市、芦屋市、加東市、神戸市灘区、神戸市東灘区、太子町、播磨町、姫路市、香美町、高砂市、神戸市北区の地域赤十字奉仕団員224人が、防災セミナーや点字等を体験しました。

(2) 青少年赤十字メンバーとの合同ボランティア活動

11月、神戸市東灘区赤十字奉仕団、兵庫県立東灘高等学校ボランティア同好会が環境保全活動の一環として新聞エコバッグの作製に取り組みました。

2 特別赤十字奉仕団(青年赤十字奉仕団・特殊赤十字奉仕団)

特別赤十字奉仕団は、点字、無線、潜水、写真、通訳など専門的な知識や技術を活かした活動を展開しています。

令和3年度は、兵庫県声の図書赤十字奉仕団が県内10会場において、地域赤十字奉仕団員を対象に「障がい者が安心して暮らせるまちづくり」というテーマで点字講習を行いました。

また、神戸青年赤十字奉仕団および姫路赤十字看護専門学校学生奉仕団は、オンラインを活用することで、近畿2府4県との合同研修会に参加し、防災やコロナ禍での活動について考え、理解を深めました。



4 青少年赤十字

世界の平和と人類の福祉に貢献できる青少年の育成を目的に、学校教育の場で「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の実践目標を掲げ活動を展開しています。

加盟校数190校 メンバー数63,996人(令和4年3月末現在)

1 青少年赤十字の研修事業

令和3年度青少年赤十字Action Program～コロナに負けない未来に向かって!～

(1)オンライン学習会【8月4日:中学生9名、高校生19名、指導者4名】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、「青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター」が宿泊型で実施できなくなったことから、トレーニング・センターの要素を採り入れたオンライン学習会を開催しました。学習会では、「赤十字について」、「ボランタリーサービス」などを学び、最後は各グループに分かれて親睦を深めました。



(2)Action Program【8月6日:中学生4名、高校生24名、指導者9名】

8月6日はAction Programとして、「青少年赤十字の紹介やコロナ予防啓発のポスター作成」、「医療従事者へのメッセージボード作成」、「地元紹介PR動画づくり」のグループに分かれて、活動に取り組みました。今回は電子黒板を活用するなど、参加者が創意工夫しながら、これまでにない作品が完成しました。その後、ポスターは関係機関へ配布し、メッセージボードは神戸赤十字病院に掲示しました。動画は兵庫県支部のホームページやSNSに掲載しました。

2 青少年赤十字研究推進校

加盟校における青少年赤十字活動をより充実したものとするため、年度毎に研究推進校を指定し、赤十字の指定するテーマについての研究を委嘱しています。令和3年度は、小学校2校、高等学校2校の計4校を指定し、その研究成果を各学校からWebツールを活用し、兵庫県青少年赤十字研究会にて報告いただきました。

3 提供プログラム

兵庫県支部では、加盟校が各学校のカリキュラムの中で青少年赤十字活動を展開できるよう、「健康・安全」「福祉教育」「国際理解・平和」「防災教育」の4つの分野の活動プログラムを提供しており、令和3年度は延べ50回実施しました。(令和4年3月末現在)



4 その他

青少年赤十字創設100周年に向け、また、青少年赤十字活動をより多くの学校に知ってもらうことを目的に、各加盟校において日頃から取り組んでいる活動の調査を行い、兵庫県支部のホームページやSNSを通じて広く周知することとしており、令和3年度は兵庫県立尼崎小田高等学校の防災班取材しました。

防災班では、イベントの企画や防災グッズ(防災すごろくやお菓子ポシェット)を作成しています。



5 国際活動

世界192の国や地域の赤十字・赤新月社などと連携して、開発途上国赤十字社の事業への協力支援、また民族紛争や自然災害による被災者支援への緊急及び復興支援などの人道的活動を行っています。

1 国際救援・開発協力要員を海外へ派遣

派遣先	派遣期間	業務内容	派遣者
県内の新型コロナウイルス感染症にかかる病院対応等もあり派遣者なし			

2 インドネシア・コミュニティ防災事業

世界有数の災害多発国であるインドネシアにおいて、地震と津波などの災害から命を守るため、日本赤十字社はインドネシア赤十字社とともに、コミュニティ防災事業に取り組んでおり、兵庫県支部もこの活動を支援しております。

3 海外たすけあいキャンペーン

紛争や災害で苦しむ人々や感染症など病気で苦しむ人々を支援するため、今年で39回を迎える募金キャンペーンを12月に開催し、県内の各地区・分区などを通じて広く県民の皆さまから、また赤十字奉仕団や日赤有功会等の皆さまから多大なご協力をいただきました。

兵庫県支部の実績額	7,239,869円
-----------	------------

6 活動資金

国内外の災害救護活動や各地域で安全安心のため取り組まれる赤十字活動は、活動の意義や理念にご賛同いただいた方々(会員といいます。)からお寄せいただく活動資金と、多くのボランティアの方々の奉仕等によって支えられています。ご協力いただいた活動資金や奉仕活動は、日本赤十字社の組織的基盤であり、活動を推進するうえでの原動力となっています。

■地区・分区における活動資金のご協力額

各地区・分区(県内各市町)におきまして活動資金へのご協力をお願いし、多くの方々からご協力をいただきました。ご協力いただいた活動資金は、被災者の救援活動や災害への備え、そして地域の安全安心のための活動などに役立てられています。

地区・分区		ご協力額	地区・分区	ご協力額	地区・分区		ご協力額
神戸市	東灘区	6,697,930	相生市	4,494,232	朝来市		4,073,146
	灘 区	2,064,281	豊岡市	10,035,434	淡路市		5,043,568
	中央区	2,051,470	加古川市	10,393,200	たつの市		9,547,904
	兵庫区	3,165,935	赤穂市	6,956,500	加東市		3,525,900
	北 区	2,730,007	西脇市	3,069,320	阪神北	猪名川町	1,141,765
	長田区	2,939,433	宝塚市	8,153,021	東播磨	稲美町	3,521,480
	須磨区	3,001,050	三木市	3,076,326		播磨町	3,377,512
	垂水区	3,768,387	高砂市	6,461,300	北播磨	多可町	2,410,510
	西 区	2,343,879	川西市	5,276,217	中播磨	市川町	1,738,500
	神戸市小計	28,762,372	小野市	4,415,300		福崎町	2,373,201
姫路市		52,306,954	三田市	3,318,299	神河町		1,920,300
尼崎市		16,337,182	加西市	3,670,533	西播磨	太子町	3,313,053
明石市		3,232,990	丹波篠山市	4,666,579		上郡町	2,504,000
西宮市		19,872,701	養父市	3,164,710	佐用町		2,612,905
洲本市		2,530,800	丹波市	7,259,994	但 馬	香美町	2,631,440
芦屋市		4,091,048	南あわじ市	4,700,100		新温泉町	2,097,300
伊丹市		6,214,895	宍粟市	5,182,661	地区・分区合計		279,475,152
					支部扱い		265,288,751
					総 計		544,763,903

(令和4年3月末現在)

7 医療事業

姫路、多可、神戸の赤十字病院では、いずれも各地域の中核病院として救急医療やへき地医療など安全で安心な医療サービスの提供を行うとともに、日本赤十字社の使命でもある災害救護活動や国際活動を展開できる体制の強化を図りました。

また、新型コロナウイルス感染症の急速な拡大に対し、各病院では通常の診療を継続しながらも、感染症への対策を強化するなど、医療体制の整備を行っています。

姫路赤十字病院	住 所：〒670-8540 姫路市下手野1-12-1 電話番号：079-294-2251
----------------	---

標榜科目：内科、消化器内科、血液・腫瘍内科、肝臓内科、腎臓内科、糖尿病内科、呼吸器内科、循環器内科、小児科、小児外科、外科、乳腺外科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、麻酔科、緩和ケア内科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、臨床検査科、化学療法内科

多可赤十字病院	住 所：〒679-1114 多可郡多可町中区岸上280 電話番号：0795-32-1223
----------------	--

標榜科目：内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、婦人科、眼科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、皮膚科、精神科、麻酔科、歯科

神戸赤十字病院	住 所：〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-1 電話番号：078-231-6006
----------------	---

標榜科目：内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病・代謝内科、心療内科、脳神経内科、外科、消化器外科、乳腺外科、形成外科、整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、皮膚科、病理診断科

令和3年度 業務実績

区分	姫路		多可		神戸	
	延べ患者数	一日平均	延べ患者数	一日平均	延べ患者数	一日平均
外来患者	332,674	1,375	28,585	119	128,105	529
入院患者	171,100	469	26,909	74	89,712	246

8 看護師養成

看護専門学校では、一般の看護教育にとどまらず、国内外における災害救護活動においても活躍できる看護師の養成を行いました。

定員数、在籍者総数

定員数	学年	1年生	2年生	3年生	合計
各学年40名	令和3年度学生数	36	43	42	121

(令和4年3月末現在)

卒業生

	卒業生	国家試験合格率	就職率
令和3年度	40名	100%	100%

9 血液事業

血液事業では、全国7カ所にブロック血液センターを置き、献血者や血液製剤の安全対策の充実や血液製剤の安定供給をはじめ、事業の効率化、健全な経営基盤の確立を図っています。兵庫県赤十字血液センターは、近畿ブロック血液センター内の地域血液センターとして、県内7カ所の献血ルームと移動採血車で、県民の皆様や県内で働く方々に献血いただく「採血業務」と、血液製剤を県内の医療機関にお届けする「供給業務」を担っています。

コロナ禍においても、Web予約の推進を強化するなど、安定的に献血者を確保して、兵庫県内だけでなく近畿管内全体の安定供給に貢献することができました。

また、SNS、オンラインセミナー等を活用し、若年層を中心とした幅広い年齢層を対象に、様々な献血推進活動を展開しました。

●はたちの献血キャンペーン

●愛の献血助け合い運動

●全国学生クリスマス献血キャンペーン

●世界献血者デー

●献血セミナー (主な取り組み例)

献血者の受入

成分献血	400mL献血	200mL献血
66,964	144,974	5,155

(令和4年3月末現在)

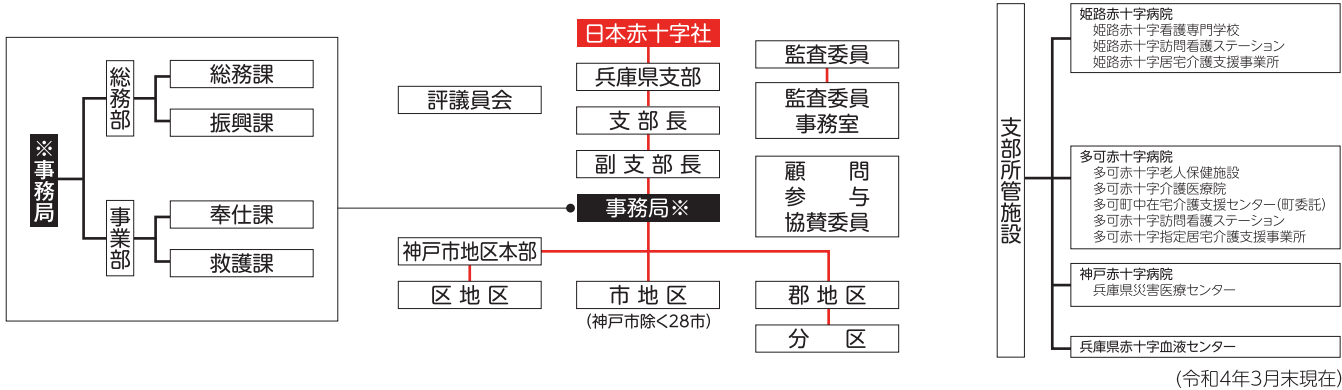
輸血用血液製剤の供給

赤血球	血漿	血小板
238,326	85,281	302,760

(令和4年3月末現在)

10 日本赤十字社兵庫県支部の現勢

- 支 部 長：齋藤元彦(兵庫県知事)
- 副支部長：藪本訓弘(兵庫県健康福祉部長)、小原一徳(神戸市副市長)、庵逄典章(兵庫県町村会長)
- 監査委員：3名 ■支部参与：3名 ■協賛委員：8名 ■評議員：54名



11 決算報告

令和3年度の各施設等の歳入歳出決算を報告します。

一般会計

個人や法人の皆様からの活動資金等を主な財源に、災害救護、救急法等の講習会、青少年赤十字やボランティアの活動など、兵庫県支部の事業にかかる収支をまとめたものです。

■日本赤十字社兵庫県支部 (千円)

科 目		決算額	内 訳
歳入	活動資金収入	544,978	一般からの活動資金収入 470,018千円 法人からの活動資金収入 74,746千円 個人住民税控除海外救援金 214千円
	補助金、交付金	3,009	本社交付金、県補助金収入
	繰入金	32,683	災害等資金などから繰入
	前年度繰越金等	78,290	前年度繰越金、雑収入
	歳入合計	658,960	
歳出	災害救護事業費	49,971	災害救護に要した費用及び救護装備整備費、救護看護師の養成経費
	社会活動費	51,226	救急法等の講習普及事業費、赤十字奉仕団や青少年赤十字の育成費など
	国際活動費	1,517	海外赤十字社支援事業費など
	指定事業地方振興費	55,141	災害救護設備整備費、採血受入機関整備費、救急医療体制整備費など
	地区区分交付金	60,027	地区区分への事務費及び事業費の交付金
	社業振興費	48,649	活動資金募集及び会員管理費、広報活動費
	基盤整備交付金	37,734	管内施設への基盤整備交付金
	積立金支出	87,735	災害等資金などへの積立金
	本社送納金	70,326	本社への送納金
	管理費等	121,098	管理事務費、資産管理費など
	歳出合計	583,424	
	歳入歳出差引額	75,536	

医療施設特別会計

医療施設の運営等にかかる収支をまとめたもので、赤十字病院等医療施設の診療収入を主な財源として、医療施設運営のための費用等に充てられます。

■県内3赤十字病院(姫路、多可、神戸) (千円)

科 目		決算額	内 訳
収益的収入	医業収益	34,974,393	入院及び外来の診療等にかかる収益 入院患者数 287,721人 外来患者数 489,364人
	医業外収益	3,826,746	駐車場や売店等の収益、受取利息等
	医療社会事業収益	34,044	医療社会活動にかかる本社繰入金など
	付帯事業収益	3,000,926	看護専門学校、老人保健施設等の収益
	特別利益	3,472	上記に含まれない過年度収益など
	収益的収入合計	41,839,581	
収益的支出	医業費用	32,478,860	人件費、材料費、委託費など
	医業外費用	286,774	支払利息、駐車場等の管理費など
	医療奉仕費用	490,472	医療社会活動にかかる人件費・経費など
	付帯事業費用	3,049,608	看護専門学校、老人保健施設等の運営にかかる経費など
	特別損失	33,563	固定資産にかかる除去損など
	法人税等	8,030	税負担など
	収益的支出合計	36,347,307	
収支差引額		5,492,274	黒字施設数 3施設 黒字額 5,492,274千円 赤字施設数 0施設

※平成24年度から血液事業特別会計は、日本赤十字社本社にて一元化されたため記載しておりません。

あなたの身近に赤十字

救急医薬品の寄贈・AEDの配備

県内の警察署、交番など750カ所に救急箱を設置して、とっさの手当てに備えるとともに、警察施設にAED(自動体外式除細動器)を配備し県民の安全安心に役立てていただいています。



あなたの街の災害救援車

県内の各市町での災害救援や赤十字活動を支援するために災害救援車を配備しています。令和3年度は、姫路市地区、相生市地区、小野市地区の3台の車両を更新しました。



赤十字ポスターコンクール

県内の小・中・高・特別支援学校を対象に「いのちを守る赤十字活動」をテーマに作品を募集したところ、今年度は63校442作品の応募があり、39作品が入賞しました。



赤十字活動をPR

5月の赤十字運動月間を中心に、赤十字活動を広く知っていただくため、レッドライトアッププロジェクトや、テレビ・ラジオ・YouTube広告などでPRしました。



開催日	イベント名	開催施設名
5月5日～11日	赤十字レッドライトアッププロジェクト	阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター
5月8日	赤十字レッドライトアッププロジェクト	明石海峡大橋
通年	テレビ・ラジオ・YouTube広告	メディア関係

